

議案第45号

教育委員会の権限に属する事務の点検評価結果の概要について

令和5年9月27日提出

豊橋市教育委員会  
教育長 山西正泰

令和5年度

**教育委員会の権限に属する  
事務の点検評価結果の概要**

(令和4年度決算評価)

令和5年9月

豊橋市教育委員会

# 目 次

1	点検評価の概要	
	(1) 点検評価の目的	3
	(2) 点検評価の実施方法	3
2	行政評価のしくみ	4
3	政策分析レポート	
	政策分析レポートとは	5
	1 豊かな人間性を備え、未来を創る人が育つまち	6
	5 互いを尊重し合い、心豊かに暮らせるまち	9
	○細事業実績リスト	12
5	外部評価結果	18

## 1 点検評価の概要

### (1) 点検評価の目的

平成 19 年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育事務の点検及び評価等に関する規定が追加され、平成 20 年 4 月から、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないとされました。

点検・評価を通じて、効果的な教育行政の推進を図り、市民への説明責任を果たすことを目的としています。

**【参考】** 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

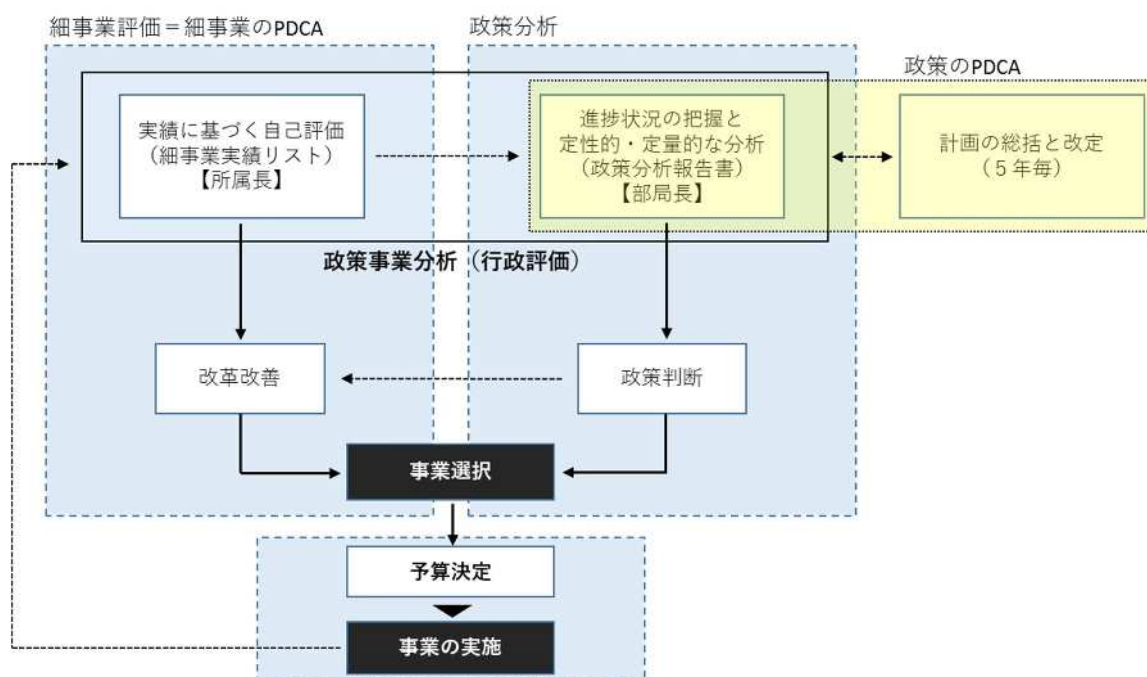
### (2) 点検評価の実施方法

教育委員会の権限に属する事務の点検評価については、本市の行政評価を活用し、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 2 項に規定する教育に関し学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会が行った点検評価の結果について、元豊橋市立中学校長の谷中緑氏、元豊橋市教育委員会委員の高橋豊彦氏に、選定した 4 件の取組みに対して点検評価を実施していただきました。

## 2 行政評価のしくみ

本市の政策事業分析は、「政策」と、政策を推進するために実施する「細事業」の2段階で行っている。

細事業分析では、実績に基づき進捗管理を行うことで改革改善を進める一方、政策分析では、定性的・定量的な分析と政策的判断を重視した総合的な分析を行っており、分析結果は、政策推進に向けた効果的な事業選択と、行政資源の効率的な配分を図るために有効活用するとともに、財政計画や実施計画、行財政改革プランとも連携を図りながら、総合計画の推進に役立てていく。



### 3 政策分析レポート

#### 政策分析レポート（分野別計画）とは

政策分析レポート（分野別計画）は、第6次豊橋市総合計画の分野別計画に掲げた8つの目指すまちを実現する38政策について、取り組みの基本方針ごとの取り組み状況や指標の数値をもとに、社会環境等も併せた総合的な分析を行い、今後の展開につなげるもの。

#### <項目の説明>

##### ■ 取り組みの基本方針と取り組み状況

分野別計画の「取り組みの基本方針」ごとに主な取り組みを記載。また、政策事業分析（行政評価）の対象とした細事業の事業費を集計した結果を記載。（職員人件費や公債費等は除く。取り組みの基本方針ごとに千円未満切り捨て）

##### ■ 指標

令和元年度時点の数値を基準値とし、令和7年度までの各年度の実績値を記載。なお、令和2年度時点の実績値についても参考値として記載。

##### ■ 指標や社会環境等に関する分析評価と今後の展開

###### 「指標の分析評価」

当該政策の進捗を図るために必要な指標の数値について分析評価し、課題認識や必要な対応策などについて記載。

###### 「社会環境等の分析評価」

政策を取り巻く社会環境の変化、最近の動きや課題認識など、主だったものを記載し、分析評価することにより、課題認識や必要な対応策などについて記載。

###### 「今後の展開」

取り組み状況、指標、社会環境等に関する分析評価を踏まえ、当該政策について今後進めべき展開を記載。

<b>1-2</b>	<b>学校教育の推進</b>	教育部
------------	----------------	-----

子どもたちの「生きる力」を育むよう、学校、家庭、地域が一体となって確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた教育の実現を目指します。

**取り組みの基本方針と取り組み状況**

**1 豊かな学びの推進**

R4 年度決算：717,591 千円

- ・タブレットを活用した多様な学習活動を実施するため、ICT 支援員を新たに配置した「GIGA サポートセンター」を新設し、学びの支援体制を強化したほか、本市学芸員がそれぞれの施設にかかわる歴史や文化などについて、オンライン授業を実施し、オンラインリアルタイム学習の充実を図った。
- ・郷土を大切にすることを育成するため、小学校 6 年生向けの歴史副読本を作成し、一人一台配布しているタブレットに 20 の歴史コンテンツを新たに追加した。

**2 健やかな心と体の育成**

R4 年度決算：3,778,000 千円

- ・物価高騰に直面する保護者の負担を軽減するため、令和 4 年 10 月から令和 5 年 3 月までの間、市立小中学校及びくすのき特別支援学校の給食を無償提供した。また、就学援助を受けている世帯や弁当を持参している児童生徒、私立学校へ通う児童生徒の保護者に相当額の臨時給付金を支給した。

**3 教育環境の充実**

R4 年度決算：6,833,486 千円

- ・ゆとりある教育活動を目指し、部活動に関する活動日や活動時間などを改定した「部活動指導の手引き」に基づいて、中学校の部活動を運営した。また、欠席連絡事務が簡素化できる「まなびポケット」を活用し、教職員の働き方改革を推進した。
- ・可動式の無線アクセスポイントを市内全小中学校に設置し、タブレットなどを積極的かつ有効に活用するための環境を整備したほか、子どもたちが快適な学校生活を送ることができるよう、生活様式の変化に対応した洋式トイレの整備を小学校で推進した。

**4 教職員の力量向上**

R4 年度決算：22,159 千円

- ・教員免許更新制の発展的解消を受け、効果的な研修体制の構築を目的とし、基本研修、職務研修等の各種研修の内容を充実させた。

**5 特色ある学校づくり**

R4 年度決算：4,572 千円

- ・学校・家庭・地域が一体となって学校運営や課題解決に取り組むコミュニティ・スクールの導入に向け、市内の小中学校や地域住民を対象とした研修会を開催したほか、導入予定の小中学校には個別に説明会を行い、円滑な制度の普及に努めた。

**6 個の特性に寄り添った教育の推進**

R4 年度決算：595,912 千円

- ・特別支援学級に特別支援教育支援員を新たに配置し、日常生活に支援を必要としている児童や、状況の変化への対応が苦手といった困り感のある児童などに対してきめ細かな支援を推進した。
- ・くすのき特別支援学校に新たに心理カウンセラーを配置し、様々な事情や悩みを抱えた子どもたちに寄り添った支援を行うとともに、教職員や保護者に対して専門的な観点からの助言を行った。

**指標**

指標	基準値 (R1)	参考値 (R2)	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7)
学校で子どもたちの確かな学力が育まれていると感じている保護者の割合	—	91.8%	86.1%	86.5%				維持 (92%)
学校で子どもたちの豊かな心が育まれていると感じている保護者の割合	—	91.3%	88.5%	88.8%				維持 (92%)
学校で子どもたちの健やかな体が育まれていると感じている保護者の割合	—	89.7%	87.3%	88.9%				維持 (90%)

**指標や社会環境等に関する分析評価と今後の展開**

**指標の分析評価**

- ・確かな学力の育成は令和 3 年度から 0.4 ポイント、豊かな心の育成は 0.3 ポイント、健やかな体の育成は 1.6 ポイント上昇する結果となった。ほぼ横ばいの結果ではあるが、健やかな体の育成に関しては、特に中学校での上昇幅が大きく、新型コロナウイルス感染症拡大への配慮を行いながらも、身体を動かす活動を充実させることができた結果であると考えられる。

**社会環境等の分析評価**

- ・子どもを取り巻く環境が多様化・複雑化する中で、ICT などを活用した個別最適・協働的学びを一体的に充実させるとともに、不登校児童生徒への支援や特別支援教育の充実など、多様な教育ニーズへの対応が求められている。
- ・学校・家庭・地域が連携・協働することにより、将来を担う子どもたちを地域全体で育み、地域とともにある学校づくりを推進していく必要がある。

**今後の展開**

- ・子どもが自らの興味や習熟度に応じて学習する個別最適化学習や、自分の考えを伝えたり、他者と協働して新たな考えを見出したりを協働的な学習を進め、子どもたちの「学びたい」という気持ちを引き出すことのできる教育環境の整備を進めていく。
- ・様々な問題を抱える子どもや保護者が安心して相談できる体制を構築するとともに、教師が子ども一人ひとりとじっくり向き合い、常に寄り添うことができる環境を整えていく。

<b>1-3</b>	<b>生涯学習の推進</b>	教育部、(文化・スポーツ部)
------------	----------------	----------------

子どもから大人まで、市民一人ひとりが生涯にわたり学ぶことができ、その成果を生かして活躍することができる社会の構築を目指します。

**取り組みの基本方針と取り組み状況**

**1 多様な学習機会の充実** R4 年度決算：592,670 千円

- ・一般講座や大学連携講座を開催し生涯学習活動を促進することで多様化する市民の学習ニーズに対応した。
- ・生涯学習施設や青少年教育施設の修繕、施設のリニューアルなど、施設機能の充実を図った。

**2 地域・学校・家庭の協働の推進** R4 年度決算：17,371 千円

- ・市民自ら学んだ成果を様々な教育活動に還元する場として、地域の大人を講師として子ども向けの各種体験講座を開催した。
- ・家庭教育セミナーなどを開催し、子どもや子育てへの関心を高めることで家庭教育に関する学習支援の充実を図った。

**3 放課後の学びと交流機会の充実** R4 年度決算：1,064,559 千円

- ・国の制度に基づき児童クラブ支援員の処遇改善（賃金改善）を行い、放課後の安全・安心な居場所づくりの確保を行った。
- ・「のびるん de スクール」実施校を令和4年度2学期より、全小学校へと拡大し、新たな学びの場の拡充を図った。

**4 図書館の充実** R4 年度決算：278,313 千円

- ・図書の見直しに加え、利用者の関心の高い時事性のあるイベントや展示などを開催するとともに、ICTを活用し、図書館が所蔵する郷土資料および美術博物館が所蔵する歴史・美術資料をインターネットで閲覧できる、「とよはしアーカイブ」などのサービスを充実させた。
- ・図書館開館110周年を記念して、豊橋市図書館110周年検定や特別展「110周年に選ぶおすすめ110冊」、郷土に関する企画展・講演会など、過去・現在・未来をつなぐ様々な事業を行い、図書と人、情報と人、人と人との交流のきっかけを提供することができた。

指標								
指標	基準値 (R1)	参考値 (R2)	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7)
生涯学習施設・青少年教育施設の利用者数	993,227 人	632,380 人	726,760 人	832,086 人				1,070,000 人
のびるん de スクール登録児童割合	—	25.8%	24.2%	20.2%				50%
図書館の来館者数 〔4館+分室(利用人数)〕	875,293 人	638,066 人	906,463 人	1,235,553 人				1,800,000 人

**指標や社会環境等に関する分析評価と今後の展開**

**指標の分析評価**

- ・生涯学習施設・青少年教育施設の利用者数は令和3年度726,760人に対して令和4年度832,086人と増加し、コロナ禍の前の水準まで戻りつつある。また、施設利用者の9割を占める地区市民館の修繕及び環境整備を進めたことで幅広く利用された。
- ・のびるん de スクールは、令和4年度2学期より市内全小学校へ拡大したが、コロナ禍の影響及び保護者の負担感もあり登録割合は20.2%にとどまった。
- ・図書館の来館者数は、令和3年11月に開館したまちなか図書館の通年の実績が加わったことから、令和3年度の906,463人に比べ329,090人の増となり36%増加した。

**社会環境等の分析評価**

- ・コロナ禍を契機に対面講座やオンライン講座など、学習機会の多様化が進んでいるため、受講者のニーズに合った講座内容を検討していく必要がある。
- ・児童数は減少している一方で、共働き家庭は今後も増加することが想定され、児童クラブのニーズは依然として高い。今後もニーズに対応した児童クラブの運営を行っていくため、計画的かつ安定的な運営体制を整えていく必要がある。
- ・のびるん de スクールは、放課後の学びの場として一定の理解は得られているものの、保護者にとっては登録方法の不便さと保険費用の負担が新規登録の障壁となっているため、運営方法を改善していく必要がある。
- ・まちなか図書館以外の3館の来館者数は、新型コロナウイルス感染症対策に伴う行動規制の緩和などにより、回復しつつあるが、コロナ禍以前と比べ減少傾向にある。

**今後の展開**

- ・受講者のニーズに合った講座を実施していくとともに、施設の修繕や環境整備を計画的に行い、利用促進を図っていく。
- ・今後も様々な体験が提供できるよう、学校や地域、児童クラブと連携しながら放課後教育のさらなる充実を図っていくとともに、「のびるん de スクール」の登録者数増加に向け、運営方法の改善を実施していく。
- ・中央図書館の大規模改修に向けた準備を進めるとともに、今後も地域の情報・交流拠点としての役割を果たしていく。



## 1-4 科学教育の推進

総合動植物公園、(教育部)

身近な生きものから宇宙までを学ぶことができ、新しい発見や驚きに出会うことができる科学教育環境をつくりまします。

## 取り組みの基本方針と取り組み状況

## 1 科学を学び親しむ機会の充実

R4 年度決算：89,685 千円

- ・自然史博物館では、科学への理解や関心を深めるため、特別企画展「ポケモン化石博物館」の開催や大型映像の上映を行ったほか、多様な企画展、ワークショップなどを開催し、市民への普及啓発を図るとともに科学を学ぶ機会を充実させた。また、より質の高い教育普及活動を展開するため、調査研究・資料収集活動を活発に行った。
- ・視聴覚教育センター・地下資源館では、大人向け科学講座として「夜空に奏でる歌物語ジャズ&プラネ」や「大人のための天体望遠鏡実験」などを新たに開催し、科学教育イベントへの参加者層の拡大を図った。また、視聴覚教育センターにおいて、より鮮明な映像を提供するため、プラネタリウムの映像用プロジェクターを、レーザー光源を使用したプロジェクターへ更新した。

## 2 科学教育環境の充実

R4 年度決算：124,774 千円

- ・自然史博物館では、中生代展示室屋上防水改修工事や特別企画展示室ロビー屋上漏水修繕のほか、空調機の取替を実施するなど、計画的な整備改修を実施した。
- ・視聴覚教育センターでは、第一研修室（講堂）の冷暖房設備修繕を実施するなど計画的な整備改修を実施した。
- ・自然史博物館では、自然史研究の発展と科学教育の振興のため、社会共有財産として、質の高い充実した資料の継続的な収集、適切な管理及び保存を行った。

## 指標

指標	基準値 (R1)	参考値 (R2)	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7)
科学教育施設の入場者数	1,055,255 人	859,681 人	1,039,070 人	1,219,850 人				1,150,000 人
科学教育施設の収蔵資料数	555,667 点	557,110 点	588,143 点	588,616 点				600,000 点

## 指標や社会環境等に関する分析評価と今後の展開

## 指標の分析評価

- ・科学教育施設全体として、感染症対策に配慮しながら、特別企画展やワークショップなどの魅力あるイベントを開催したことで多くの入場者があった。特に特別企画展「ポケモン化石博物館」は科学分野に関心の薄かった層にも興味を持ってもらうことができ、例年を大きく上回る数となった。また、視聴覚教育センター・地下資源館では、子どもたちに人気のあるプラネタリウム番組を放映したことや、大人向け科学講座が好評であったことによる増加があった。
- ・収蔵資料数は、自然史博物館への寄贈標本受入や採集活動などにより増加した。

## 社会環境等の分析評価

- ・コロナ禍でも、来場者が安心して訪れることができるよう、感染症対策に配慮しながら魅力的なイベント等を開催した結果、科学教育施設全体の入場者数は、コロナ禍以前の水準に戻った。
- ・博物館法の一部を改正する法律が令和5年4月1日に施行されることを受け、博物館資料のデジタルアーカイブ化や他の博物館等との連携、文化観光その他の活動を図り、地域活力の向上に取り組むことが努力義務となったため、関係部署との連携を図っていく必要がある。

## 今後の展開

- ・大型映像、プラネタリウム、ワークショップ、実験ショーなどの教育プログラムを継続して実施するとともに、学芸員等による調査研究活動を推進し、科学教育施設全体で連携しながら教育普及活動の質を向上させていく。
- ・貴重な資料を適切に管理するため、収蔵環境の整備を今後も継続して推進していく。
- ・豊橋市の科学教育施設の新たなあり方検討委員会において総括した課題をもとに、科学教育施設全体で連携しながら、本市科学教育の将来像を検討していく。

## 5-3 美術の振興と歴史文化の継承

教育部

美術資料や歴史資料などの文化財・歴史資産を適正に保存し、これをより多くの市民に積極的に公開し活用します。

## 取り組みの基本方針と取り組み状況

## 1 美術博物館の充実

R4 年度決算：130,821 千円

- ・「びはくクロージング・イベント」を開催したほか、「びはく移動展」や出前講座などのアウトリーチ活動を展開した。
- ・施設の機能や来館者の利便性を高めるため、実施設計に基づく改修工事を推進した。

## 2 文化財の保護と次世代への継承

R4 年度決算：302,160 千円

- ・二川宿本陣資料館では、文化財への関心を高めるため、漆喰壁塗り替え修繕のクラウドファンディングを行うとともに、休館中の美術博物館所蔵品の展示「びはく移動展Ⅰ・Ⅱ」、全国各地の名城や歴史舞台が描かれた歴史考証イラストを多数展示した「香川元太郎城郭原画展」、平成31年から令和4年にかけて二川宿本陣資料館に寄贈された人形コレクション「おひなさまと武者人形 柴田コレクション展」などの企画展や各種季節イベントなどを開催した。
- ・文化財に対する市民の関心を高めるため、継続的な調査と保存・活用を進めて文化財の価値を明らかにするとともに、「市指定史跡吉田城址保存活用計画」を策定し、本市を代表する文化財である吉田城址の保存と活用の方向性を示した。

## 指標

指標	基準値 (R1)	参考値 (R2)	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7)
美術博物館の入館者数	182,883 人	109,648 人	119,195 人	57,242 人 ※1				195,000 人
二川宿本陣資料館の入館者数	36,032 人	14,000 人	21,417 人	26,845 人				38,000 人
指定・登録文化財の件数	143 件	144 件	151 件	151 件				150 件

※1 改修工事のため右記期間休館（6月～8月15日、10月16日～3月）

## 指標や社会環境等に関する分析評価と今後の展開

## 指標の分析評価

- ・美術博物館については、改修工事による休館のため入館者数の大幅な減少が想定されたが、物資不足による工事遅延により2か月間再開館し、市内小中学校との連携による壁画制作やクロージング・イベントを開催したことで反響を得た。また、休館中は二川宿本陣資料館で移動展を行うとともに、出前講座などのアウトリーチを行うことで、非来館者層へアピールした。
- ・二川宿本陣資料館の入館者数は令和3年度21,417人に対して5,428人増加した。主な要因としては、新型コロナウイルス感染防止対策の規制緩和による、来館者数やイベント・講座等の募集定員の増などが挙げられる。
- ・指定・登録文化財の件数は令和3年度から変動はないが、目標値はすでに上回っている。これは調査研究や各種作業の進展により令和3年度に多数の文化財指定が進んだこと、前回の指定が令和3年度末に行われたことに起因している。

## 社会環境等の分析評価

- ・新型コロナウイルス感染症による施設の開館やイベントの開催にかかる制限が緩和されている中、非接触による作品解説ツールの導入や展覧会やイベントなどの新たな開催方法を検討する必要がある。
- ・多様性やSDGsに配慮した施設整備が求められているため、外国語表記やユニバーサルデザインなどの導入を検討していく必要がある。
- ・文化財保護法の改正により「文化財保存活用地域計画」策定が推進されるようになった。市民の郷土愛を十分に育むためにも、文化財の保存と活用に向けた基本方針やアクションプランの策定を進めていく。

## 今後の展開

- ・貴重な歴史文化や多様な芸術の鑑賞機会を提供するため、3～5年の中期計画の中でバランスを考慮しながら美術博物館及び二川宿本陣資料館における企画を立案し、展示解説アプリ「ポケット学芸員」の導入を進める。
- ・市民生活をより豊かなものにするため、美術博物館の目指す姿と活動の方向性を検討するとともに、地域文化に関する資料の収集・調査研究を進め、展示や普及活動などによって市民にその成果を還元していく。
- ・資料の保存・展示環境、来館者の利便性の向上を図るため、美術博物館の改修工事をスケジュールに沿って進めていく。
- ・歴史的建造物の保存・活用を継続し、二川宿本陣、旅籠屋「清明屋」、商家「駒屋」の一体的なPR活動を展開していく。
- ・文化財の価値を明らかにするため、文化財サポーターなど文化財保護活動の担い手を積極的に育成しながら、新たな文化財を見出していく。
- ・文化財価値の周知と保存・活用を推進するため、すべての文化財の保護を総括する基本方針として「文化財保存活用地域計画」の策定を進め、史跡・天然記念物の保護や埋蔵文化財の発掘調査、各種講座やイベントなどに取り組んでいく。

## 5-5 市民協働の推進

市民協創部

市民一人ひとりが自分の住んでいる地域や社会のことを考えて行動し、また地域コミュニティ、市民活動団体、事業者などあらゆる主体、あらゆる世代が協力してまちづくりに取り組む社会を目指します。

## 取り組みの基本方針と取り組み状況

## 1 地域コミュニティ活動の促進

R4 年度決算：291,494 千円

- ・地域の自主性を高め活動の活性化を図ることを目的として、校区及び町自治会に対してコミュニティ活動交付金を交付した。また、自治会のデジタル化を支援するため、新たな取り組みとして Web 会議を体験する講習会を全 10 ブロックで開催した。
- ・地域コミュニティの拠点施設である校区市民館の管理・運営を行うとともに、環境整備（照明 LED 化、Wi-Fi 中継機の設置）を進め、校区市民館の機能を高めた。また、全ての校区市民館においてホームページを作成・公開し、情報発信に努めた。

## 2 市民活動への支援

R4 年度決算：46,148 千円

- ・公益的社会貢献活動を行う市民活動団体を資金面から支援するため、市民協働推進補助金を交付した。
- ・市民活動を支援するため中間支援施設である豊橋市民センターにおいて、相談・研修を行った。

## 3 若者活躍の支援と機会の充実

R4 年度決算：5,402 千円

- ・若者のまちづくりへの意識醸成と若者の意見を市政に反映させるため「豊橋わかば議会」を開催し、若者委員が議論を通し提案した政策を事業化へつなげた。
- ・わかば議会先輩若者委員の政策立案までの経験や、事業化された自分たちの提案に参加した経験を伝える場として、現役若者委員との交流会を開催した。

## 指標

指標	基準値 (R1)	参考値 (R2)	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7)
まちづくり活動に参加したことがある市民の割合	45.6%	71.1% ※	70.3%	68.6%				75%
校区市民館の利用者数	1,053,101 人	590,813 人	695,102 人	795,538 人				1,072,000 人
わかば補助金申請件数 (累計)	- [11 件/年]	- [2 件/年]	6 件 [6 件/年]	11 件 [5 件/年]				30 件

※R2 からアンケート調査の設定の中に、まちづくり活動の具体例を記載している。

## 指標や社会環境等に関する分析評価と今後の展開

## 指標の分析評価

- ・まちづくり活動に参加したことがある市民の割合は令和 3 年度 70.3%に対し 68.6%と 1.7 ポイントの減となっている。傾向として、20、30 歳代は他の世代に比べ活動への参加率が低く、インターネットモニターアンケート調査の結果でも、趣味など自分の楽しみを優先したい世代であるため、引き続き若い世代への意識醸成を図っていく必要がある。
- ・校区市民館の利用者数は、新型コロナウイルス感染症による利用制限の緩和などにより令和 3 年度 695,102 人に対し 100,436 人増となったが、令和元年度に比べると 8 割弱にとどまっており、コロナ禍により停滞した市民の活動を再び活性化させる必要がある。
- ・わかば補助金の申請件数は令和 3 年度 6 件に対し微減となっている。令和 4 年度から市外在住の若者が市内で活動をする場合、旅費等を補助額に加算できるよう補助制度を拡充したが、市外在住者の申請はなかったため、市内の高校や大学に対する広報活動を継続するほか、市外在住者に対する制度の周知を図るなど、申請件数の増加のための取り組みが必要である。

## 社会環境等の分析評価

- ・地域コミュニティなどの市民の活動はコロナ禍前に戻つつあるが、一方で自治会活動のデジタル化など活動手法の多様化・優先順位の見直しが行われており、このような変化を踏まえた支援が必要である。
- ・若者による政策提案事業について、他都市において、政策提案のブラッシュアップのため若者委員が主体的に行う実証実験を実施している事例もあり、本市においても、導入によりブラッシュアップが期待できるものとする。

## 今後の展開

- ・自治会の担い手の確保や、誰もが活動しやすい環境を整えるため、自治会の負担軽減やデジタル化の更なる推進を図る。
- ・校区市民館を拠点とした市民の活動を支援するため、市民館の利用ルールを見直すとともに、地域コミュニティの拠点施設としての校区市民館の位置付けやあり方を整理・検討する。
- ・わかば補助金の申請を増やすため、民間プレスリリースサービスを活用するなど、市外在住者に対する効果的な周知を図る。
- ・若者政策提案事業について、トライアル（調査・実践）による提案のブラッシュアップを目指すほか、トライアルに取り組む様子から若者が行動するきっかけや周囲への影響の与え方等を考察し、若い世代のまちづくり活動への参画に役立てていく。

性別によらずに人権が尊重され、さまざまな場面で活躍することができ、誰もがいきいきと暮らせるまちを目指します。

### 取り組みの基本方針と取り組み状況

#### 1 性別によらずに活躍できる環境の充実

R4 年度決算：2,298 千円

- ・全ての人が性別、性的指向、性自認にかかわらず人権を尊重され社会の対等な構成員として、あらゆる分野において活躍できる、男女共同参画及び性の多様性を尊重する社会の実現を目指し、男女共同参画推進条例を改正し、性の多様性に関する規定を追加したほか、ハーモニープラン 2023-2026 の策定に取り組んだ。
- ・市民の男女共同参画意識の醸成を図るため、男女共生フェスティバルを3年ぶりにコロナ禍前の規模で開催するとともに、月間・週間の啓発イベントや小中学生等に対するパンフレットの配布を実施した。
- ・女性活躍の推進や女性の就業を促進するため、「女性応援プロジェクト」や「女性再就職支援事業」を実施したほか、女性キャリアアップ応援補助金の交付対象に国家資格取得のほか公的資格取得を追加した。

#### 2 性別による困難を抱える人への支援の充実

R4 年度決算：22,140 千円

- ・困難や不安を抱える女性を支援するため、電話相談や面接相談のほか、SNS 相談、居場所の提供、訪問支援などを実施した。
- ・男性であることにより由来する悩みを抱える男性への支援として、男性相談を実施した。
- ・LGBT 等性的少数者の生きづらさの解消のため、面接相談を行うとともに、市の各種申請書等の全庁的な性別欄見直しを行った。また、パートナーシップ制度の宣誓者の転出入時における負担を軽減するため、東三河5市において、パートナーシップ宣誓制度に係る自治体間連携に関する協定を締結した。
- ・男女共同参画に取り組む団体の活動支援や、男女共同参画社会に関する意識の向上を目的に市民向け講座や情報発信などを実施した。また、男女共同参画センターにおいては、WEB によるセミナー受講やテレワークスペースとして活用できるよう Wi-Fi 環境を整備した。

### 指標

指標	基準値 (R1)	参考値 (R2)	R3	R4	R5	R6	R7	目標値 (R7)
「男性は仕事、女性は家庭」という考えではない人の割合	40.5%	—※1	57.6%	—※1				50%
各種委員会、審議会等への女性委員の登用率※2	25.2% (30.2%)	25.2% (29.5%)	26.6% (30.9%)	27.2%				35%

※1 アンケートについては隔年実施のため R2、R4 実績値無し。

※2 R4 より、指標の対象とする審議会等を「法律・条例・要綱に基づくもの」から「法律・条例に基づくもの」に改めた。( ) は従前の対象による登用率。

### 指標や社会環境等に関する分析評価と今後の展開

#### 指標の分析評価

- ・各種委員会、審議会等への女性委員の登用率は27.2%にとどまり、目標値との乖離がある。基準値である令和元年度より登用率は少しずつ増加しているが、委員推薦元への働きかけを強化するなど、女性委員の登用を促していく必要がある。

#### 社会環境等の分析評価

- ・女性の労働力率は、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し育児が落ち着いた時期に再び上昇する、いわゆる「M字カーブ」であり、その底である年齢階級での労働力率が近年大幅に上昇した。一方で雇用形態は、フルタイム・パートタイム等多様であり、ライフステージに合わせて女性が希望する働き方で働き続け、活躍できる環境づくりを進める必要がある。
- ・全国の自治体において、パートナーシップ制度のオンライン宣誓が導入されはじめており、宣誓手続きにおける負担軽減や当事者が尊重され安心して制度を利用できる環境整備が求められる。
- ・望まない孤独・孤立で不安といった困難を抱える人やDV相談者が増加しており、関係機関との連携を深める必要がある。また、LINE 相談の相談者に占める若い女性の割合が大きいことから、顕在化していなかった若い女性の相談ニーズの掘り起こしとして時間・場所に縛られない SNS ツールは有効であると推察されるため、SNS による相談を拡充する必要がある。

#### 今後の展開

- ・各種委員会、審議会等への女性委員の登用を促進するため、推薦元の団体等にハーモニープラン 2023-2026 概要版を送付し、本市の男女共同参画の取り組みを伝えることで男女共同参画の視点の必要性を再認識していただき、委員推薦者の選考の際の参考にしていただくとともに、ハーモニープラン 2023-2026 に基づき、女性の活躍促進につながる取り組みを行っていく。
- ・困難や不安を抱える女性に寄り添った支援の充実を図るため、NPO 等の知見を生かした相談事業において Instagram による SNS 相談を追加し、きめ細かい支援を実施していく。
- ・LGBT 等性的少数者が安心していきいきと生活できるまちづくりを進める取り組みの一環として、パートナーシップ制度においてオンライン申請や郵送による書類提出の導入を検討するとともに、事業所における性の多様性の理解を促進するための啓発リーフレットを新たに作成・配布し、社会全体の理解の促進を図る。

令和5年度事業継続リスト（令和4年度決算）

事業名	部局名	課室名	84年度決算額 (円)	事業概要	R4年度の主な取組みと実績
10201 恵か女子U10の推進	教育部	教育政策課	226,388	教育方針で年間順次、その功績の顕著なものを表彰	・表彰件数(教育賞4件、教育運動賞2件)
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	4,984,191	行事開催事業費	・子どもたちのための科学展(13,284人) ・小東記念賞(作品数1,898点)
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	117,347,110	教育活動支援事業費	・少年少女説明クラブ(毎月1回)開催(598人) ・中学校進学大会・全国大会出場への準備(133人) ・新人学校運動会への支援員派遣(6人) ・中学校運動会への指導員派遣(3人) ・小東記念賞(実行委員会) ・小東記念賞(表彰状) ・子ども選形プロジェクト
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	3,127,680	生徒指導対策事業費	・児童生徒に特化した「科学・文化・科挙等の教育活動」への参加 ・児童生徒の健全育成に向けた「子ども選形プロジェクト」の開催 ・児童生徒の健全育成に向けた「子ども選形プロジェクト」の開催 ・児童生徒の健全育成に向けた「子ども選形プロジェクト」の開催 ・児童生徒の健全育成に向けた「子ども選形プロジェクト」の開催
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	76,680	いじめ問題対策事業費	・「恵か女子U10」の開催による各事業の推進
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	4,733,352	授業・学習支援センター推進事業費	・「授業・学習支援センター」の推進を教育委員会に働き、コーディネーターを配置する ・「授業・学習支援センター」の推進を教育委員会に働き、コーディネーターを配置する ・「授業・学習支援センター」の推進を教育委員会に働き、コーディネーターを配置する
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	23,740,940	学校図書活動推進事業費	・児童生徒の読書習慣の定着を図るための取組
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	130,984	小・中学校図書活動推進事業費	・児童生徒の読書習慣の定着を図るための取組
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	28,379,976	教育振興事業費	・教科用教科書、指導書、副読本の配布 ・教科用教科書の導入(84年度) ・教科用教科書の導入(84年度)
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	21,484,608	学力・体力向上支援事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	436,320	学力・体力向上推進事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10201 恵か女子U10の推進	教育部	教育政策課	58,980	学びの連携推進事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	9,740	学びの連携推進事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	0	教育交流推進事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	0	教育交流推進事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	127,785,069	国際理解教育推進事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	800,000	キャリア教育推進事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	319,854,265	情報教育推進事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	819,680	安全・安心教育推進事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10201 恵か女子U10の推進	教育部	学校教育部	63,595,122	体育施設等有効活用事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10202 恵か女子U10の育成	教育部	教育政策課	139,374,025	学校保健事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10202 恵か女子U10の育成	教育部	学校教育部	4,017,079	学校保健事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10202 恵か女子U10の育成	教育部	学校教育部	30,468,350	学校保健事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10202 恵か女子U10の育成	教育部	学校教育部	2,353,314	学校保健事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10202 恵か女子U10の育成	教育部	学校教育部	30,340,372	学校保健事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10202 恵か女子U10の育成	教育部	学校教育部	4,777,270	学校保健事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10202 恵か女子U10の育成	教育部	学校教育部	6,637,355	学校保健事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業
10202 恵か女子U10の育成	教育部	学校教育部	186,295,070	学校保健事業費	・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業 ・小中学校の学力向上支援事業

取組の基本方針	事業名	事業内容	部署名	課室名	84年度決算額(円)	概要	84年度の主な取組と実績
10202 誰やかな心体の育成	学校給食センター運営事業費	学校給食センター運営事業費	教育部	保給給食課	1,857,845,024	・市立小中学校及びくすのき特別支援学校への学校給食の提供、南陽中学校給食センター一階の給食センターの管理運営	・学校給食の実施(小・中学校18回、くすのき特別支援学校18回)
10202 誰やかな心体の育成	学校給食施設管理事業費	学校給食施設管理事業費	教育部	保給給食課	41,147,370	・給食用エレベーターの保守点検及び修繕(市立小中学校3校)	・給食用エレベーターの保守点検の実施
10202 誰やかな心体の育成	市立中学校給食協会補助金	市立中学校給食協会補助金	教育部	保給給食課	59,370,131	・「くすのき特別支援学校給食協会」の活動に資するため、1食料用「レール」等により給食を運搬しない児童生徒の保護者(「市立小中学校等」)に対し、臨時給付金(令和4年10月～令和5年3月)まで給食費負担額を支給	・給食用エレベーターの修繕、改修工事の実施 ・「くすのき特別支援学校給食協会」の活動に資するため、1食料用「レール」等により給食を運搬しない児童生徒の保護者(「市立小中学校等」)に対し、臨時給付金(令和4年10月～令和5年3月)まで給食費負担額を支給
10202 誰やかな心体の育成	学校給食物資調達事業費	学校給食物資調達事業費	教育部	保給給食課	1,587,659,694	・学校給食物資の発注及び支払業務の委託(連携中学校給食協会)	・学校給食の備蓄倉庫材取用率(70.5%)
10202 誰やかな心体の育成	学校給食費無償対応臨時給付金給付事業費	学校給食費無償対応臨時給付金給付事業費	教育部	保給給食課	119,753,395	・学校給食費の滞りなく支払われるよう、滞りなく給食費を支払う児童生徒の保護者(「市立小中学校等」)に対し、臨時給付金(令和4年10月～令和5年3月)まで給食費負担額を支給	・臨時給付金支給数(学校給食費滞り等)427人 ・臨時給付金支給額(滞り等)4,566人
10203 教育環境の充実	私立学費補助事業費	私立学費補助事業費	教育部	教育政策課	8,639,000	・私立学校の授業料及び教材費の一部を補助	・補助学校数(5校)私立高等学校3校、外国人学校2校 ・私立生延在費数(3,659人)私立高等学校3,315人、外国人学校324人)
10203 教育環境の充実	私立学費補助事業費	私立学費補助事業費	教育部	教育政策課	21,812,359	・市内在住保護者等の教育費負担軽減のため、私立高等学校等に在籍する生徒の授業料を補助	・私立高等学校授業料補助金(全日制・定時制)(1,509万、18,922,200円) ・私立高等学校授業料補助金(通学制)(89万、1,819,340円) ・私立高等学校授業料補助金(47件、824,400円)
10203 教育環境の充実	就学支援事業費	小・中学生就学支援事業費	教育部	学校教育部	6,435,907	・学校児童生徒の適正な就学の管理、就学援助事務など実施	・小学校 就学援助受給者数(4,766人) ◎小学校入学者用品費の支給額拡充(+3,000円)
10203 教育環境の充実	就学支援事業費	就学援助事業費	教育部	学校教育部	166,065,373	・義務教育を円滑に実施するため、東・東三郡保護児童生徒の滞りなく就学にかかる保護者の経済的負担軽減 ・「くすのき特別支援学校」の滞りなく就学にかかる保護者の経済的負担軽減	・補助授業(1件) 令和3年度医学看護学看護学教育学会学生奨学金(令和4年2月11日(土)開催、319人参加)
10203 教育環境の充実	学務振興事業費	学全全大委補助金	教育部	教育政策課	100,000	・本邦に滞在する大学の関連団体等が全全全大で行うボランティアなどの関係者の一部を補助	
10203 教育環境の充実	奨学支援事業費	奨学金給付事業費	教育部	教育政策課	11,338,062	・経済的理由により進学が困難な大学生等にに対し、給付奨学金を支給	・奨学金支給学生数(37人)
10203 教育環境の充実	小学校管理事業費	小学校管理事業費	教育部	教育政策課	465,859,841	・学校給食の管理	
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	小学校推進事業費	教育部	教育政策課	274,220,969	・学校給食の管理	・学校図書蔵書数(488,065冊)
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	小学校推進事業費	教育部	学校教育部	86,126,833	・児童生徒の安全確保 ・児童生徒の安全確保に必要となる備品等の整備	
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	小学校推進事業費	教育部	学校教育部	1,180,000	・児童生徒の安全確保 ・児童生徒の安全確保に必要となる備品等の整備	
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	八戸小学校改善増進事業費	教育部	教育政策課	600,826,420	・適切な時間と全面改修を行うことで施設の劣化を抑制し、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・施設改善の質実量豊(84完了)
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	東田小学校改善増進事業費	教育部	教育政策課	510,073,142	・適切な時間と全面改修を行うことで施設の劣化を抑制し、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・北校舎長寿命化改修工事(83～84) ・南校舎長寿命化改修工事(84～85)
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	戸部小学校改善増進事業費	教育部	教育政策課	357,087,940	・適切な時間と全面改修を行うことで施設の劣化を抑制し、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・中校舎長寿命化改修工事(83～84) ・南校舎長寿命化改修工事(84～85) ・南校舎長寿命化改修工事(83～84)
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	鹿沼小学校改善増進事業費	教育部	教育政策課	346,748,839	・適切な時間と全面改修を行うことで施設の劣化を抑制し、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・北校舎長寿命化改修工事(83～84)
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	向小小学校改善増進事業費	教育部	教育政策課	528,870,783	・適切な時間と全面改修を行うことで施設の劣化を抑制し、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・北校舎長寿命化改修工事(83～84) ・南校舎長寿命化改修工事(84～85)
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	大田小学校改善増進事業費	教育部	教育政策課	229,855,725	・適切な時間と全面改修を行うことで施設の劣化を抑制し、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・南校舎長寿命化改修工事(84～85)
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	鹿沼小学校改善増進事業費	教育部	教育政策課	0	・適切な時間と全面改修を行うことで施設の劣化を抑制し、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・R5年度へ繰越し
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	花田小学校改善増進事業費	教育部	教育政策課	0	・適切な時間と全面改修を行うことで施設の劣化を抑制し、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・R5年度へ繰越し
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	鹿沼小学校改善増進事業費	教育部	教育政策課	0	・適切な時間と全面改修を行うことで施設の劣化を抑制し、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・R5年度へ繰越し
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	岩田小学校改善増進事業費	教育部	教育政策課	0	・適切な時間と全面改修を行うことで施設の劣化を抑制し、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・R5年度へ繰越し
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	栄小学校改善増進事業費	教育部	教育政策課	0	・適切な時間と全面改修を行うことで施設の劣化を抑制し、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・R5年度へ繰越し
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	鹿沼小学校改善増進事業費	教育部	教育政策課	0	・適切な時間と全面改修を行うことで施設の劣化を抑制し、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・R5年度へ繰越し
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	岩田小学校改善増進事業費	教育部	教育政策課	446,490,482	・適切な時間と全面改修を行うことで施設の劣化を抑制し、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・R5年度へ繰越し
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	多小小学校改善増進事業費	教育部	教育政策課	195,268,700	・適切な時間と全面改修を行うことで施設の劣化を抑制し、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・北・中校舎長寿命化改修工事(83～85)
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	校舎等改修事業費	教育部	教育政策課	928,044,953	・計画的な小学校校舎等の施設整備計画による学校施設の維持保全	・北・中校舎長寿命化改修工事(83～85) ・中・南校舎長寿命化改修工事(84～86)
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	通勤通学整備事業費	教育部	教育政策課	109,025,400	・計画的な小学校校舎等の施設整備計画による学校施設の維持保全	・トイレスリッパ取付改修工事(4校) ・丸型等改修工事(1校)
10203 教育環境の充実	小学校推進事業費	一階修繕事業費	教育部	教育政策課	58,189,837	・計画的な小学校校舎等の施設整備計画による学校施設の維持保全	・運動場整備工事(1校) ・大型木製遊具更新工事(1校)
10203 教育環境の充実	中学校管理事業費	中学校管理事業費	教育部	教育政策課	266,105,158	・学校給食の管理	・小学校施設、設備の維持修繕 ・業務委託件数(25件)
10203 教育環境の充実	中学校推進事業費	中学校推進事業費	教育部	教育政策課	170,014,911	・学校給食の管理	・学校図書蔵書数(380,888冊)
10203 教育環境の充実	中学校推進事業費	中学校推進事業費	教育部	教育政策課	42,147,038	・生徒の個人情報保護を目的とした個人情報セキュリティ対策 ・生徒の個人情報保護システム管理運営事業	

取組の基本方針	事業名	細事業名	部局名	課室名	R4年度決算額(円)	細事業概要	R4年度の主な取組みと実績
10203 教育環境の充実	中学校校舎等寿命延長改築事業費	南郡中学校校舎改築改築事業費	教育部	教育政策課	172,954,100	・適切な時期に全面改修を行うことで施設の寿命延長を図り、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・武通場寿命延長改築工事(1校)
10203 教育環境の充実	中学校校舎等寿命延長改築事業費	東郡中学校校舎改築改築事業費	教育部	教育政策課	0	・適切な時期に全面改修を行うことで施設の寿命延長を図り、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・R5年度へ繰越し
10203 教育環境の充実	中学校校舎等寿命延長改築事業費	西向中学校校舎改築改築事業費	教育部	教育政策課	96,485,000	・適切な時期に全面改修を行うことで施設の寿命延長を図り、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・西内運動場長寿命延長改築工事(R4~R5)
10203 教育環境の充実	中学校校舎等寿命延長改築事業費	中郡中学校校舎改築改築事業費	教育部	教育政策課	116,279,650	・適切な時期に全面改修を行うことで施設の寿命延長を図り、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・西内運動場長寿命延長改築工事(R4~R5)
10203 教育環境の充実	中学校校舎等寿命延長改築事業費	東郡中学校校舎改築改築事業費	教育部	教育政策課	106,675,000	・適切な時期に全面改修を行うことで施設の寿命延長を図り、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・西内運動場長寿命延長改築工事(R4~R5)
10203 教育環境の充実	中学校校舎等寿命延長改築事業費	木通中学校校舎改築改築事業費	教育部	教育政策課	219,092,055	・適切な時期に全面改修を行うことで施設の寿命延長を図り、学校施設のライフサイクルコストの効率化を実現	・南校舎大規模改築改築工事(R3~R4)
10203 教育環境の充実	中学校校舎等寿命延長改築事業費	校舎等改修事業費	教育部	教育政策課	221,047,701	・計画的な中学校校舎等の施設整備計画による学校施設の維持保全	・校舎外壁等改修工事(1校) ・校舎内壁等改修工事(1校)
10203 教育環境の充実	中学校校舎等寿命延長改築事業費	一帯修繕事業費	教育部	教育政策課	42,443,330	・計画に基づき、3年間の研究費を計画しその成果を公表する。	・中学校施設、設備の維持補修
10204 教職員力の向上	現職研修事業費	指定校研究奨励補助金	教育部	学校教育課	1,194,391	・教員に関する今日の課題について、3年間の研究費を計画しその成果を公表する。	・研究発表会 出席者数(1,204人)
10204 教職員力の向上	現職研修事業費	現職研修委員会補助金	教育部	学校教育課	2,019,425	・「現職研修員」による研修活動の推進	・校内研修実施回数(1,501回)
10204 教職員力の向上	現職研修事業費	指定校研究奨励補助金	教育部	学校教育課	0	・学校教育の質向上を図るための調査研究を、要知要経事業として実施	・掲載されるなかったため実施せず
10204 教職員力の向上	現職研修事業費	施設管理運営事業費	教育部	学校教育課	13,373,847	・教職員の研修施設である教育委員会の管理・運営を行う。	・年間利用者数(12,827人)
10204 教職員力の向上	現職研修事業費	教職員研修事業費	教育部	学校教育課	5,572,232	・教職員の指導力の向上と視野の拡大を図るため、市立小中学校の教職員の研修を実施	・各種研修等へ参加者数(校内研修、基本研修、職務研修、研究部等研修、課題・専門研修、特別研修)(8,481人)
10204 教職員力の向上	現職研修事業費	教育委員会管理運営事業費	教育部	学校教育課	0	・教員免許状を更新することにより、教育の質向上に貢献する教職員の研修を実施	・教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律の施行により事業費が
10205 特色ある学校づくり	学校づくり推進事業費	学校づくり推進事業費	教育部	学校教育課	4,429,029	・特色ある学校づくり推進委員会	・特色ある学校づくり推進事業費(23件)
10205 特色ある学校づくり	学校づくり推進事業費	学校づくり推進事業費	教育部	学校教育課	142,410	・地域教育推進委員会推進事業	・学校経営計画において(1)ラングが多い中学校校(19校)
10206 個性の個性に寄り添った教育の推進	教育相談事業費	外国人児童生徒支援教育相談事業費	教育部	学校教育課	115,238,779	・教育相談員による外国(在籍)児童生徒に対する日本語指導(7人)・日本語指導員(2人)による日本語指導(2人)・外国人児童生徒に対する日本語指導(7人)・外国人児童生徒に対する日本語指導(7人)	・相談員(外国人)4名(外国人児童生徒相談員(2名)・アドバイザー(2名)) ・外国人児童生徒相談員(2名)・アドバイザー(2名) ・外国人児童生徒相談員(7名)・カウンセラー(7名)
10206 個性の個性に寄り添った教育の推進	教育相談事業費	教育相談活動事業費	教育部	学校教育課	35,943,703	・市内小中学校児童生徒及び保護者を対象に、教育に関する相談について、適切な指導や助言を行う	・スクールソーシャルワーカー、教育相談員、心理カウンセラーなど(18人)
10206 個性の個性に寄り添った教育の推進	教育相談事業費	不登校対策支援事業費	教育部	学校教育課	53,318,196	・よはしほつとプラザ(市内)において不登校及びその傾向にある児童生徒に対し、社会自立に向けての支援を行う	・よはしほつとプラザ 教育相談員(6人) ・生活サポート支援非常勤講師(12名)
10206 個性の個性に寄り添った教育の推進	特別支援教育推進事業費	特別支援教育推進事業費	教育部	学校教育課	24,248,531	・障害のある児童生徒一人一人に合った適切な教育を実施	・特別支援教育推進委員(5人) ・にじのこ相談室相談員(36名) ・心理判定員相談員(48名) ・療養室児童のためのスクールパスを運営(6名/日~12名/日)
10206 個性の個性に寄り添った教育の推進	くすのき特別支援教育推進事業費	管理事業費	教育部	教育政策課	166,823,236	・学校施設及び学校設備の維持管理	・相談センター対応件数(3174件)
10206 個性の個性に寄り添った教育の推進	くすのき特別支援教育推進事業費	教育活動事業費	教育部	教育政策課	69,839,069	・校外での体系的学習環境を取り入れた教育活動の実施 ・奨励に向けた産学連携による教育活動の実施(産業界) ・くすのき相談センターの運営 ・園補助費を活用した産学連携及び学習保障に必要な備品等の整備	
10206 個性の個性に寄り添った教育の推進	市立高等学校教育推進事業費	管理事業費	教育部	教育政策課	22,298,755	・心理カウンセラーの活用	・心理カウンセラー相談員数(昼間部3名、夜間部2名)
10206 個性の個性に寄り添った教育の推進	市立高等学校教育推進事業費	教育活動事業費	教育部	教育政策課	70,879,314	・キャリア教育研修の実施 ・園補助費を活用した産学連携及び学習保障に必要な備品等の整備	・キャリア教育実施回数(昼間部10回、夜間部2回)
10206 個性の個性に寄り添った教育の推進	市立高等学校教育推進事業費	市立高等学校整備事業費	教育部	教育政策課	7,216,000	・改善や運動場等の全面改修	・高梁水質の更新 ・体育、保健衛生等改築工事の実施設計
10206 個性の個性に寄り添った教育の推進	家政高等学校教育推進事業費	管理事業費	教育部	教育政策課	4,650,387	・心理カウンセラーの活用	・心理カウンセラー相談員数(24名)
10206 個性の個性に寄り添った教育の推進	家政高等学校教育推進事業費	教育活動事業費	教育部	教育政策課	25,457,224	・キャリア教育研修の実施 ・園補助費を活用した産学連携及び学習保障に必要な備品等の整備	・キャリア教育実施回数(13回)
10301 多様な学習機会の実現	生涯学習推進事業費	生涯学習市立大学事業費	教育部	生涯学習課	5,825,327	・市民の生涯学習活動の推進を図るために市民大学を開設 ・生涯学習推進事業の一環として、生涯学習センターを開設 ・生涯学習センターの運営	・市民大学トラム講座実施回数(7回講座) ・生涯学習推進事業(13回)
10301 多様な学習機会の実現	生涯学習推進事業費	生涯学習活動事業費	教育部	生涯学習課	562,330	・生涯学習の推進のため、幼児等の幼児や活動推進等を実施	・大清水生涯学習センター「まなぶまなぶ」の開催 ・生涯学習推進事業(13回)
10301 多様な学習機会の実現	地区市民館管理運営事業費	地区市民館管理運営事業費	教育部	生涯学習課	249,507,157	・自主グループ市民館がコミュニティ活動の場として活用できるように地区市民館の管理運営を適切に実施 ・地区市民館をオンラインで広くウェブキャスト事業を実施	・地区市民館(2箇所)を利用した延べ人数(702,411人)
10301 多様な学習機会の実現	地区市民館整備事業費	地区市民館整備事業費	教育部	生涯学習課	181,778,140	・「豊後市施設保全計画」に基づき、計画的に施設の改修、設備の更新を実施	・豊後市市民館の予防保全工事を実施 ・杉山地区市民館の大規模改修を実施
10301 多様な学習機会の実現	青少年学習センター管理運営事業費	青少年学習センター管理運営事業費	教育部	生涯学習課	46,023,043	・青少年センター管理運営について、指定管理業者を委託 ・施設の機能維持のための修繕を実施	・青少年センターの利用者数(延べ48,744人) ・青少年向けの講座など自主事業を実施(延べ41種、3,155人) ・トイル、非常用照明、防火シャッターの修繕を実施
10301 多様な学習機会の実現	青少年学習センター管理運営事業費	青少年学習センター管理運営事業費	教育部	生涯学習課	15,873,238	・市立学校、青少年団体の青少年活動の導入を実施 ・老朽設備等の修繕を実施	・少年自然の家の利用者数(延べ5,151人) ・創作活動室施設整備等を実施
10301 多様な学習機会の実現	青少年学習センター管理運営事業費	青少年学習センター管理運営事業費	教育部	生涯学習課	26,304,190	・市立学校、青少年団体の青少年活動の導入を実施 ・老朽設備等の修繕を実施	・野外教育センターの利用者数(延べ9,948人) ・トイル施設修繕、集会所トイル施設修繕等を実施

取り組みの基本方針	事業名	事業内容	部局名	課室名	84年度決算額(円)	事業概要	84年度の主な取組みと実績
10301 多様な学習機会の実現	青少年教育施設管理運営事業費	神田ふれあいセンター管理運営事業費	教育部	生涯学習課	3,462,837	・神田ふれあいセンター管理運営者へ委託	・神田ふれあいセンターの利用者数(延べ1,506人)
10301 多様な学習機会の実現	青少年教育施設管理運営事業費	江比間野外活動センター管理運営事業費	教育部	生涯学習課	13,334,000	・旧東洋製薬工場東区市町圏の青少年教育施設である江比間野外活動センターの管理運営に要する経費として給付金を支出	・江比間野外活動センターの利用者数(延べ41,028人)
10302 地域・学校・家庭の協働の推進	地域教育推進事業費	地域教育活動事業費	教育部	生涯学習課	4,710,438	・地域ぐるみ子どもを育てる環境を整えるため、地域の大人・学校・家庭と連携し、生涯学習推進セミナーの参加者数(延べ379人) ・トヨタウェルネスクラブの参加者数(延べ8,840人) ・地域未来ステップの参加者数(延べ209人)	・地域ぐるみ子どもを育てる環境を整えるため、地域の大人・学校・家庭と連携し、生涯学習推進セミナーの参加者数(延べ379人) ・トヨタウェルネスクラブの参加者数(延べ8,840人) ・地域未来ステップの参加者数(延べ209人)
10302 地域・学校・家庭の協働の推進	地域教育推進事業費	成人式開催事業費	教育部	生涯学習課	4,883,150	・各小中学校で実施する二十歳の集いについて、校区社会教育委員会へ委託	・二十歳の集いの参加者数(3,481人)
10302 地域・学校・家庭の協働の推進	家庭教育推進事業費	家庭教育講座事業費	教育部	生涯学習課	1,062,815	・健全な子育てを促すため、家庭教育に関する講座を実施	・家庭教育セミナー実施数(16講座) ・子育て全部会実施数(9講座) ・子育て全部会参加者数(2,000名) ・子育て全部会講座実施数(2講座) ・子育て全部会講座参加者数(9月12日) ・子育て全部会講座参加者数(9月12日) ・子育て全部会講座参加者数(9月12日) ・子育て全部会講座参加者数(9月12日)
10302 地域・学校・家庭の協働の推進	青少年交流活動促進事業費	青少年交流活動促進事業費	教育部	生涯学習課	300,361	・自然環境を活かした子どもキャンプ・自然体験活動の機会提供として、自然体験プログラム、くらしおまかせボランティアプログラムなどを実施	・自然環境を活かした子どもキャンプ・自然体験活動の機会提供として、自然体験プログラム、くらしおまかせボランティアプログラムなどを実施
10302 地域・学校・家庭の協働の推進	社会教育関係団体事業費補助金	P T A運動施設整備補助金	教育部	生涯学習課	400,000	【東区小中学校PTA運動施設整備】 ・各小中学校のPTA運動施設の整備	・PTA運動施設の発行回数(30,000冊) ・代表者研修会及び懇話会の開催
10302 地域・学校・家庭の協働の推進	社会教育関係団体事業費補助金	豊南市民生市憲章推進協議会補助金	教育部	生涯学習課	3,540,000	【豊南市民生市憲章推進協議会】 ・市民の日(1日)長寿会、各施設訪問活動、東市憲章実践者の表彰等)の実施	・市民の日の実施(11月11日)
10302 地域・学校・家庭の協働の推進	社会教育関係団体事業費補助金	校区社会教育委員会事業費補助金	教育部	生涯学習課	45,000	【豊南市民生市憲章推進協議会】 ・二十歳の集い、委員長研修、委員、役員会の実施	・二十歳の集い(18回) ・委員長研修(1回) ・委員研修(4回) ・役員会の実施(5回)
10302 地域・学校・家庭の協働の推進	社会教育関係団体事業費補助金	青少年団体活動補助金	教育部	生涯学習課	2,319,440	【豊南市民生市憲章推進協議会】 ・少年・ジュニアリーダー研修会、子ども会大会、全町子ども会安全共済会事務等	・少年・ジュニアリーダー研修会等の参加人数(延べ139人) ・70周年記念イベントの実施
10303 放課後の学びと交流機会の充実	放課後児童対策事業費	公民館児童クラブ運営事業費	教育部	生涯学習課	474,374,329	・公民館児童クラブ48クラブの運営	・入所した児童の年間延べ人数(20,885人)
10303 放課後の学びと交流機会の充実	放課後児童対策事業費	民衆児童クラブ運営事業費	教育部	生涯学習課	425,848,184	・民衆児童クラブ40クラブに対し、運営支助のため補助金を交付	・入所した児童の年間延べ人数(21,045人)
10303 放課後の学びと交流機会の充実	放課後児童対策事業費	放課後子ども教室運営事業費	教育部	生涯学習課	10,471,111	・放課後子ども教室の運営	・設置箇所数(6箇所)
10303 放課後の学びと交流機会の充実	放課後児童対策事業費	のびるんおんすくろーん運動事業費	教育部	生涯学習課	150,865,794	・児童の社会性の向上や能力の発達を目的とした「のびるんおんすくろーん」を、2学期より市内15地区から5地区に拡大して実施	・のびるんおんすくろーん年間参加人数(延べ73,912人)
10304 図書館の充実	中央図書館事業費	施設管理費	文化スポーツ部	図書館	42,919,433	◎中央図書館の維持管理 ◎中央図書館の大規模改修基本方針決定	・中央図書館利用者アンケートの満足度平均点(80.2点) ・中央図書館大規模改修計画(改修方針、スケジュールの確定、配本機能の検証可能性、図書室の決定、大規模改修計画については大規模改修、施設保全計画については大規模改修と関連し計画すること)が決定
10304 図書館の充実	中央図書館事業費	児童図書事業費	文化スポーツ部	図書館	11,462,263	◎児童図書室の購入	・中央図書館児童図書室図書冊数(525,606冊) ・児童図書室図書冊数(1,080冊) ・夏休み子どもフェスティバル(185人)
10304 図書館の充実	中央図書館事業費	一般図書事業費	文化スポーツ部	図書館	31,654,811	◎図書室協議会の開催 ◎一般図書、定次刊行物の購入、データベース使用料	・中央図書館一般図書冊数(527,539冊)
10304 図書館の充実	中央図書館事業費	レファレンス事業費	文化スポーツ部	図書館	1,770,988	◎参考図書室の購入	・中央図書館レファレンス冊数(1,475冊)
10304 図書館の充実	中央図書館事業費	郷土・司文書等図書事業費	文化スポーツ部	図書館	5,516,972	◎郷土・司文書等図書室の開催 ◎郷土資料、司文書等図書の購入 ◎とよはしアーカイブ事業の実施 ◎羽田八幡宮文庫旧蔵資料の調査	・中央図書館郷土資料整理事業(郷土資料冊数 68,595冊、一般図書冊数 1,005,700冊) ・羽田八幡宮文庫旧蔵資料の調査(豊田川町、古橋郷古館(豊田川町、古橋郷古館(豊田川町)などの所蔵調査)
10304 図書館の充実	中央図書館事業費	A V・C D 電子図書事業費	文化スポーツ部	図書館	722,526	◎AV・CD 電子図書の購入	・AV・CD等利用件数 14,092件(①貸出件数3,481件+②児童図書資料館内利用件数811件)
10304 図書館の充実	中央図書館事業費	行事開催事業費	文化スポーツ部	図書館	9,704,975	◎中央図書館でのイベント開催 ◎図書開館110周年記念事業	・中央図書館でのイベント参加人数(36,331人) ・110周年記念事業(開館110周年の未来の探し方)など34件実施
10304 図書館の充実	中央図書館事業費	配本業務費	文化スポーツ部	図書館	32,244,395	◎中央図書館、向山図書館、大清水図書館、まちなか図書館、地区市民館及び区市民館への配本業務の実施 ◎一般、児童、参考図書などの購入	・向山図書館222,885冊と分室240,021冊 ・大清水図書館利用者アンケートの満足度平均点(83.5点)
10304 図書館の充実	中央図書館事業費	施設管理費	文化スポーツ部	図書館	8,900,228	◎施設管理費	・大清水図書館図書室購入件数(225,316冊)
10304 図書館の充実	中央図書館事業費	図書業務費	文化スポーツ部	図書館	8,247,778	◎一般、児童、参考図書などの購入	・大清水図書館図書室購入件数(1,793人)
10304 図書館の充実	中央図書館事業費	行事開催事業費	文化スポーツ部	図書館	34,687	◎中央図書館でのイベント開催	・大清水図書館図書室参加人数(87.5点)
10304 図書館の充実	中央図書館事業費	施設管理費	文化スポーツ部	図書館	107,645,976	◎まちなか図書館の維持管理	◎まちなか図書館利用者アンケートの満足度平均点(87.5点)
10304 図書館の充実	中央図書館事業費	図書業務費	文化スポーツ部	図書館	16,853,154	◎図書、DVD、定次刊行物の購入、データベース使用料	◎まちなか図書館図書室冊数(411,400冊) ・利用件数(70,000冊)内利用件数(データベース利用件数 271件)
10304 図書館の充実	中央図書館事業費	行事開催事業費	文化スポーツ部	図書館	585,373	◎まちなか図書館開館後のイベント開催	◎まちなか図書館行事参加人数(11,153人)
10401 科学を学び親しむ機会の充実	自然史博物館事業費	教育普及活動事業費	総合動植物公園	自然史博物館	39,646,004	◎ワークショップなどの教育プログラムの実施 ◎大型展示の充実 ◎大正時代の展示(17,344人) ◎大正時代の展示(17,344人)	・ワークショップ等の教育プログラム 参加者数(18回)17,344人 ・大正時代の展示(17,344人)
10401 科学を学び親しむ機会の充実	自然史博物館事業費	調査研究活動事業費	総合動植物公園	自然史博物館	4,471,229	◎学術論文の発表 ◎博物館資料の収集 ◎外部資金による調査研究	・学芸員の調査研究件数(37件) ・外部資金による調査研究
10401 科学を学び親しむ機会の充実	自然史博物館事業費	特別企画展開催事業費	総合動植物公園	自然史博物館	24,093,303	◎特別企画展「石炭化石博物館」開催	◎特別企画展「石炭化石博物館」観覧者数(139,292人)
10401 科学を学び親しむ機会の充実	科学教育センター事業費	視察教育センター事業費	教育部	科学教育センター	19,931,045	◎学校理科実験講習 ◎ワークショップ等の開催 ◎プラネタリウムの実施 ◎大人向け科学講座の開催	◎大人向け科学講座を開催することで参加者層を拡充(4回)2,058人 ◎プラネタリウム観覧者数 25,702人



取組みの基本方針	事業名	細事業名	部局名	課室名	84年度決算額 (円)	細事業概要	R4年度の主な取組みと実績
10401 科学を学び親せいの充実	科学教育センター事業費	地下資源館事業費	教育部	科学教育センター	1,543,219	・ワークショップ等の開催 ②企画展「空を飛ぶもの大実験」の開催 ③企画展「空を飛ぶもの大実験」の開催 (1回、16人) ・入館者数(181,941人)	②大人向け科学講座を開催することで参加者数を充実 (1回、16人) ③企画展「空を飛ぶもの大実験」の開催 (13,693人) ・入館者数(5,574人)
10402 科学教育環境の充実	自然史博物館施設管理事業費	施設管理事業費	総合動物館公園	自然史博物館	87,221,720	・施設・設備の整備充実及び維持管理 ・施設・設備の維持管理	・入館者数(84,911人)
10402 科学教育環境の充実	石巻自然科学資料館運営事業費	運営事業費	総合動物館公園	自然史博物館	488,569	・施設・設備の維持管理 ・施設・設備の整備充実及び維持管理	②第1種特別学芸員養成研修修了 ③館内のフナネガリウム窓内看板等設置によるPRの向上 入館者数 84,911人
10402 科学教育環境の充実	科学教育センター施設管理事業費	施設管理事業費	教育部	科学教育センター	26,700,367	・施設・設備の維持管理 ・施設・設備の整備充実及び維持管理	・入館者数(5,574人)
10402 科学教育環境の充実	科学教育センター施設管理事業費	施設管理事業費	教育部	科学教育センター	10,363,129	・施設・設備の維持管理 ・施設・設備の整備充実及び維持管理	・入館者数(5,574人)
50301 美術博物館の充実	美術博物館事業費	施設管理事業費	教育部	美術博物館	39,990,322	・施設・設備の維持管理 ・施設・設備の整備充実及び維持管理	・入館者数(5,574人)
50301 美術博物館の充実	美術博物館事業費	展示事業費	教育部	美術博物館	11,257,892	・企画展・常設展 ・企画展「藤田氏の美術展」の開催 ・講演会、イベント、ワークショップ等 ・ワークショップ等による鑑賞環境の整備	・企画展「藤田氏の美術展」の開催(4,114人、主催ハリストス正教会)5,120人、「Uはクローンジグザグ」(8,940人) ・企画展「藤田氏」(「Uはクローンジグザグ」) ・常設展(20,134人) ・講演会、イベント、ワークショップ等(6,261人) ・企画展「藤田氏」(2,851人)
50301 美術博物館の充実	美術博物館事業費	美術情報資料取得等基金増立金	教育部	美術博物館	70,000,000	・寄附金及び特許を相立て「資料の購入と修復」を目的とする基金	・入館者数(5,041人) ・当該年度における事務進捗率(%)
50301 美術博物館の充実	美術博物館事業費	民俗資料収蔵運営事業費	教育部	美術博物館	3,479,096	・民俗資料の調査、収集、整理 ・収蔵品を活用した体験講座の開催	・入館者数(5,041人)
50301 美術博物館の充実	美術博物館事業費	市民編さん事業費	教育部	美術博物館	4,332,070	・市民編さん事業の開催 ・各所に保存されている資料の調査及び鑑賞資料の整理保存	・当該年度における事務進捗率(%)
50301 美術博物館の充実	美術博物館事業費	美術博物館整備事業費	教育部	美術博物館	1,762,475	・観覧から40年余りが経過し老朽化が顕著となったため、展示室や収蔵庫の「恒温恒湿」化を確保し、来館者の鑑賞環境や利便性を向上させるための改修整備	・実施設計 ・改修工事
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	施設管理事業費	教育部	美術博物館	31,225,919	・市文化財二川館本館、振替庫「清原館」及び二川館本館資料館の施設の維持管理	・本館主題の展示装飾替え修繕(クラウドファンディング)
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	展示事業費	教育部	美術博物館	8,094,462	・企画展・常設展等の開催 ・イベントの開催	・企画展「藤田氏の美術展」の開催 ・常設展「藤田氏の美術展」の開催(1,002人、「熊野の稲妻」) ・「藤田氏の美術展」の開催(3,002人) ・「藤田氏の美術展」の開催(170名まつり)等入館者数計(5,664人) ・「藤田氏の美術展」の開催(170名まつり)等入館者数計(5,664人)
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	資料収集事業費	教育部	美術博物館	980,814	・街道・道場・本館等の近世交流史及び二川地区の歴史文化を中心とした資料の収集	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館まつり開催事業補助金	教育部	美術博物館	570,000	・二川館本館まつり開催実行委員会 ・地域住民が主体となって大名行列を開催 ・日本の伝統的な生活文化を児童・青少年に継承	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館資料館整備事業費	教育部	美術博物館	7,507,500	・観覧から30年以上が経過し老朽化が顕著となったため、空調やエレベーターの更新 ・照明のLED化を進め、来館者の鑑賞環境や利便性を向上させるための改修整備	・「灯籠で飾ろう二川館」展(5,100人)
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館資料館整備事業費	教育部	美術博物館	22,443,828	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理	・実施設計 ・北土蔵の改修工費(クラウドファンディング) ・系図調査(地蔵堂)開催(3回) ・文化財保存活用地域活性化推進計画決定 ・重機市指定史跡「吉田城址」保存活用計画決定
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館資料館整備事業費	教育部	美術博物館	230,076,148	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館資料館整備事業費	教育部	美術博物館	122,615,957	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館資料館整備事業費	教育部	美術博物館	157,330	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理	・「まちづくり推進委員会」の開催(1回)
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館資料館整備事業費	教育部	美術博物館	3,394,000	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館資料館整備事業費	教育部	美術博物館	7,957,936	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館資料館整備事業費	教育部	美術博物館	2,500,000	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館資料館整備事業費	教育部	美術博物館	155,814,925	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館資料館整備事業費	教育部	美術博物館	9,000,000	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館資料館整備事業費	教育部	美術博物館	887,000	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館資料館整備事業費	教育部	美術博物館	600,000	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館資料館整備事業費	教育部	美術博物館	3,554,760	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理
50302 文化財の保護と次世代への継承	二川館本館資料館事業費	二川館本館資料館整備事業費	教育部	美術博物館	1,148,000	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理	・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理 ・市文化財「藤田氏の美術展」の施設の維持管理

取り組みの基本方針	事業名	細事業名	部局名	課室名	84年度決算額 (円)	細事業概要	84年度の主な取組みと実績
50302 市民活動への支援	市民センター管理運営事業費	市民センター管理運営事業費	市民協働部	市民協働推進課	41,445,885	・市民活動の支援を行う市民センターについて指定管理制度による管理・運営	・系選雇利用件数(立)960件 ・センター利用人数(103,008人(内、市民活動プラザの利用人数は6,474人))
50303 若者活躍の支援と関係の充実	若者成長支援事業費	若者成長支援事業費	市民協働部	市民協働推進課	5,402,038	・若者成長支援事業費	・わかほけ創設参加費数(延303人) ・若者成長支援事業費(18人(先導者若者委員)) ・先導者若者委員上の交流参加費数(20人(現役若者委員9人、先導者若者委員11人))
50001 性別によらずに活躍できる環境の充実	男女共同参画推進事業費	男女共同参画啓蒙事業費	市民協働部	市民協働推進課	1,790,040	・男女共同参画啓蒙事業費	・性多様性啓蒙ハンズレットの配布(関係機関の保護費、715、716、中1～3) ・女子生徒のための授業力発達セミナー(21人) ・女性活躍推進プロジェクト参加費(2人) ・女性活躍推進支援(セミナー)参加者数(49人、相談参加者数 8人) ・とよはしハローワーニングを3月に公表 ・男女共同参画及び性の多様性を尊重する社会づくりを推進する条例を改正
50001 性別によらずに活躍できる環境の充実	男女共同参画推進事業費	女性キャリアアップ応援補助金	市民協働部	市民協働推進課	104,000	・女性キャリアアップ応援補助金	・補助金交付件数(4件、104千円)
50001 性別によらずに活躍できる環境の充実	男女共同参画推進事業費	男女共生フェスティバル開催事業補助金	市民協働部	市民協働推進課	404,748	【趣向男女共生フェスティバル実行委員会】 ・男女共同参画推進事業費の充実に向けての意識啓蒙 ・趣向内の団体・グループの活動促進及び交流	・男女共生フェスティバル参加者数(838人)
50302 性別による困難を抱える人への支援の充実	男女共同参画支援事業費	相談支援事業費	市民協働部	市民協働推進課	19,239,831	・女性の困難による女性に対する相談など各種相談事業の実施 ・相談場所の確保及び実施費を交付、ハート ・相談員(1名)の確保 ・生理用品の配布 ・女性のつながりサポート事業の実施	・女性のための法律、悩みごと相談(1,884件) ・男性相談(1件、相談場所の変更、相談日の拡充) ・LGBT相談(4件) ・ハートサポートグループ運営費領収書交付(3件) ・生理用品配布数(672件) ・つながりサポート事業支援費等件数(758件)
50302 性別による困難を抱える人への支援の充実	男女共同参画支援事業費	男女共同参画センター管理運営事業費	市民協働部	市民協働推進課	2,900,194	・男女共同参画センター管理運営事業費	・男女共同参画センター管理運営費(270人) ・男女共同参画センター管理運営費(20人) ・男女共同参画センターへの申し込みの整理

## 5 外部評価結果

元豊橋市立中学校長の谷中緑氏、元豊橋市教育委員会委員の高橋豊彦氏に、選定した4件の取組みに対してご意見やご助言をいただきました。

### とよはし版 GIGA スクール (GIGA サポートセンターの設置)

市教育会館を拠点とし、校務支援システムや授業での ICT 活用支援を連綿と担ってきたヘルプデスクが「GIGA サポートセンター」に生まれ変わりました。これまでの支援の継続に加え、タブレット端末を活用した多様な学習活動の支援や教職員研修の拡充のため、新規に ICT 支援員 2 名を配置し、支援体制が強化されました。とよはし版 GIGA スクール構想の推進には必要不可欠のことと思いますが、本サポートセンターが、74 小中学校とくすのき特別支援学校のニーズを捉え、支援方法を構築しながら機動的な支援を行っていることに、敬意を表します。特に、次の 2 点で多大な成果が表れていると評価できます。

#### (1) タブレット端末活用への支援

タブレット端末の「1 日 1 回以上利用」という目標に対する達成率、令和 3 年度 53% に対して令和 4 年度は 83% と大きく向上しました。このような利用機会の急増の中、特に、端末を初めて使用する小学 1 年生やその担任、新たな機種を扱う中学生向けに、使い方をまとめた独自のテキストを作って配布し、「はじめの一步」を支援しておられます。一方で、頻出する利用上・管理上の問題に対しては、スタッフ 1 名あたり年間 811 件もの電話による問い合わせに対応したり、授業における ICT の活用支援はもちろん、ネットワーク構築、システム管理のための学校への訪問を繰り返したりするなどの手厚いサポートを施されており、各学校にとってたいへん頼もしい存在となっていると考えます。

#### (2) オンラインスタディの実施

サポートセンター設置による画期的な施策のオンラインスタディでは、学校を豊橋の様々な施設とつなぎ、「ポケモン化石博物館で化石を学ぼう」等、専門家が魅力を伝える授業が展開されました。参加した延べ 25,000 人以上もの豊橋の子どもたちの心をわくわくさせる、素晴らしい取り組みだったと推察されます。専門家による授業は、より興味関心を惹き、見たい、行きたい、もっと調べたい、と子どもたちの知的好奇心をかき立て、学びのきっかけになることと思います。「吉田城の魅力」を視聴した子どもの感想文に、「早く歴史を勉強したい」「教科書には載ってないこの近辺の歴史をもっと調べたい」などの声が数多く見られました。今後もふるさと豊橋を愛する心を育みながら、児童生徒の発達段階に応じた魅力あるテーマによるオンラインスタディの拡充が期待されるところです。

GIGA サポートセンターは、指導主事を核として、学習情報指導員、ICT 支援員で構成されていますが、学校現場に寄り添いさらに実効性、即効性のある支援をするためには、4、5 校に 1 人の配置が必要だと考えます。「チーム学校」の理念においても ICT 支援員が学校現場のさまざまな ICT 教育の課題解決のため、教員と連携・協働していくことが必要であり、大幅な増員が望まれます。専門性のある ICT 支援員が身近にいることで、教員の負担が減り子どもと向き合う時間を確保するだけでなく、教員が ICT 支援員からタイムリーかつ、直接的に学ぶなど、自身のスキルを向上させていくことも重要だからです。オンラインスタディでは実践の拡充に加え、市内間、さらには市外・県外の学校間等を繋ぎ、教科等の単元のゴールとして学習成果の発表の場や、意見交流の場とするシステムを構築しその拠点となることを望みます。とよはし版 GIGA スクールによるタブレット端末の活用やオンラインスタディの発展が、豊橋市の子どもたちの学習意欲と表現力を高め、学びを深める手だてのひとつとなることと期待します。

## 民間プール等活用モデル事業の拡大

民間プール等活用モデル事業については今年4年度で3年目になります。令和2年、3年と新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、令和元年度の2施設、2校のモデル事業から令和4年度は新たに9施設、17校が加わり、バス利用による施設への移動や公営プールを使った事業も実施されました。

実施校19校でのアンケート調査結果【資料】から、児童・保護者ともに全体として高い満足度であること、本事業の理解が保護者に浸透していること、泳力向上に対する効果を実感していることなどから、教育的成果については、一定の評価ができます。

児童	民間プール等施設を使った水泳授業をよいと思う	84%
	今年の水泳授業が始まったときに比べて泳げるようになったと感じる	72%
保護者	子どもが楽しく授業を受けていたと感じる	89%
	インストラクターによる専門的な指導を取り入れることで教育効果が高まると思う	94%
教師	民間プールで行うことで、教育的効果がある	84%
	学校プールより民間プール施設等で授業を行った方がよい	75%

【資料】

その一方で、次の4点については、課題であると感じます。

- ① 移動手段
- ② 移動時の安全・安心の確保
- ③ 市内全小学校への導入を見据えた際の連携施設の立地や施設数
- ④ インストラクターの確保

まず、①について、施設まで所用時間がかかるということに対して、1回の授業時間を長く確保することなど、すでに工夫は進んでいます。ただ、移動手段である車両の確保については、ポストコロナのステージに入り、懸念が高まっています。様々なハードルはあるものの、車両事業者だけでなく、その他の民間事業者の保有する従業員通勤用の車両の活用など、課題を解決していくために、多様な連携関係を模索していく必要があります。

②に関しては、施設までの徒歩移動について、児童の体力面、天候や暑さなどを心配する声も聞いています。プール授業＝夏という固定的な発想を変え、施設利用ならではの利点を活かし、懸念事項の緩和につなげられるとよいと思います。特に低学年や特別支援学級については、実施時期を調整するなど工夫する必要があるということも踏まえて、具体的な検討を進めていただきたいと思います。

③の全校導入を目指す過程においては、受入れ施設のキャパシティには限りがあるため、ある程度の学校数、自校プールを残していく選択肢も必要になってくると考えます。その際には、水泳指導に関する技能を持ち得ているインストラクターの自校プールへの派遣等も視野に入れながら、導入校と未導入校の格差をなくしていくことも大切です。

したがって、④として、アンケート結果にもあるように、インストラクターの指導が児童自身の泳力向上に対する効果を実感している意見が多いことから、自校プールで実施する場合には、指導するインストラクターの確保が必要だと思えます。もし、プール施設事業者の人材で賄えないような状況が予測されるのであれば、人材確保の検討も必要になってくると考えます。

学習指導要領では「適切な水泳場の確保が困難な場合には、水泳指導の実技については必修ではない」と示されているものの、教育の機会の平等を確保するために、今後の取り組みに期待します。また、学校プール施設の跡地利用についても、学校や地域にとって有効な活用方法を検討していただければと思います。

## 特別支援教育支援員の配置

次代を担う子どもたちに、小中学生の頃からインクルーシブ教育を進めていくことは、誰もがお互いに人格と個性を尊重し、支え合い、多様性を認め合える共生社会の形成に向けて大変重要なことです。本市において、知的障害のある子どもの学びの場として、保護者が地域の学校に通わせたいと考えるケースが増加してきているのも、インクルーシブ教育が推進され、その理念の浸透が進みつつあるととらえられます。受け入れる側の学校も障害のある子どもたちが、地域の同世代の子どもたちと交流しながら地域での生活基盤ができるようにするため、可能な限り共に学ぶことができるよう配慮することが不可欠です。

豊橋市では、これまでも通常学級に通う発達に特徴のある子どもたちへの支援を担う支援員の配置をしてきました。きめ細かな支援がなされ、様々な特性のある子どもたちが落ち着いて過ごすことができるようになると同時に、まわりの子どもたちの生活や学習の安定や充実にもつながると、多大な効果が認められております。そこで、令和4年度、新たに小学校の特別支援学級へ子どもたちがスムーズな学級生活を送れるよう寄り添い、補助を行う「特別支援教育支援員」を5名配置しました。この特別支援教育支援員の配置は、文科省の指針で示されており、「基本的生活習慣確立のための日常生活上の支援」「学習活動及び教室間移動における支援」「健康や安全確保」など、子どもの実態や状況に適した補助を行うものです。身辺自立の指導として排泄面や昼食時に困難のある子どもに個別に補助をしたり、授業中に離席があり、時には教室にいられない子どもに見守りや声かけで学習に向かえるよう促したりすることで、子どもたちが安心して学校生活を送れているのは、特別支援教育支援員が日々、愛情をもって寄り添い、きめ細やかな支援があるからこそだと感じられます。また、環境の変化への苦手さを抱えている子どもに対して、担任がその子に適した支援を考えるとともに、特別支援教育支援員が実態に応じてスモールステップで教育活動への参加の支援をすることで、児童が落ち着いて生活できるようになっているなど、担任と共にその子の成長を喜び合いながら関わり、子どもや保護者にとって安心感を生む支援につながったと評価することができます。

さて、本市の配置規定にある療育手帳A判定の子どもは、従来はほとんど、その障害に適した専門的な支援が受けられる特別支援学校に通学していました。通常学校の特別支援学級で、そういった知的障害のある子どもに加え、障害の状態、能力、学年が違う等さまざまな個性のある子どもたち数人が在籍している場合、担任1人だけできめ細やかな支援をすることには限界があります。特別支援教育支援員が学級担任をサポートする確固たる体制を作り、子どもたちがスムーズな学級生活を送れることが、目標だと捉えます。

今後もインクルーシブ教育の理念の理解が進むという喜ばしい傾向の中、地域の学校で学び、地域の仲間とともに育ちたいという知的障害のある子どもが増加してくることが考えられます。現在、本市においても児童生徒数が減少する中で、特別支援学級に在籍する児童生徒の数は伸びています。知的障害のある子どもへの対応だけでなく、他の障害種においても、支援を必要とする学級がよりいっそう多くなると推察されます。そうした中で学校の実態と、何よりも子ども一人一人のニーズへの適切な支援による成長と豊かな生活のための特別支援教育支援員による効果は、大きなものがあります。今後は知的、自情などの障害の別なく必要なところに手の届く支援を行うために、特別支援教育支援員をさらに増員し、子どもたちが安心して学べるように環境を整えていくことを期待します。また、「チーム学校」の意義において、校長のリーダーシップの下、校内全体で特別支援教育支援員との連携、協働が必要であることは言うまでもありません。子どもたちにとって家族とともにいちばん身近な生きるお手本である教職員すべてのインクルーシブ教育への理解が、障害がある、ないにかかわらず、子どもたちがお互いに個性を認め合い、支え合える意識の醸成につながると確信しています。

## のびるん de スクール全小学校実施の取り組み

「のびるん de スクール」は、令和2年度より、汐田小と牛川小の両校でモデル的に実施し、令和3年度には市内12校に拡大して検証を行いました。そこから令和4年度の2学期より市内52校すべての小学校での導入に至り、令和4年度末時点で登録児童数は4,072人と豊橋市全児童数の20.31%という状況になっています。

本事業の中心的な活動である「のびるんタイム（16:00～16:40）」での体験がきっかけとなり、運動が好きになったり、絵を描くことが好きになったりした子どもが増えました。これは、のびるんタイムで充実した楽しい時間を過ごし、新たなことへの興味・関心が広がった結果だと考えられます。令和4年度の登録者や参加者へのアンケート結果では、活動内容に対する満足度が72%でした。満足している方の中で、令和5年度も継続登録を予定している方が98%いることから本事業が好意的に受け止められていることがわかります。

また、親子の交流時間が増えたことも成果の一つだと思います。保護者アンケートから「のびるん de スクールのおかげで親子の会話が増えた」や「いつも子どもから、体験活動の報告があつてうれしい」「お迎えの帰り道に、のびるん de スクールのお話を聞くことが私の楽しみです」など、多くの声があったと聞いています。「のびるん de スクール」は、参加する教室を選ぶ段階で、親子の話し合いが始まることから、当日の活動も保護者の思いが子どもに伝わるものとなるため、自然と活動内容を子どもが親に話すというサイクルが構築され、親子の交流が深まる結果となったのではないかと考えます。

さらに、学校へ行きづらさを感じている子どもが「のびるん de スクール」には参加することができていることや「のびるん de スクール」がきっかけで学校に通うことができるようになった子どもがいるといった話も聞きました。このことは、不登校支援の一助になっていると考えます。「のびるん de スクール」は、学校の不登校対策ともしっかりと連携し、このような不登校の児童も「のびるん de スクール」をきっかけに、登校できるようになることが期待できるのではないかと思います。

全校への導入が実現したことで、「のびるん de スクール」は居住校区に限られた活動や貢献にとらわれることなく、豊橋市全体の子どものために貢献するという考え方が新たに生まれ、「事業を支える大人の輪」の更なる広がりが期待できます。今後も、登録者数などの実績にこだわり過ぎず、参加する子どもたちにとって、興味深い内容を用意し、単発な活動ではなく、継続的な経験の実現を目指して、子どもたちの社会性を育むような事業を展開して行ってほしいです。そのために、「のびるん de スクール」の事業趣旨をより明確に発信するとともに、事業を支える大人たちのネットワークづくりを優先していただきたいと思います。

ただ、多くの成果がある一方で、「電子申請による登録が難しい」「年間の活動保険料800円がネック」「趣旨がわかりにくい」という声もあり、それが、登録に踏み出せない理由の一つにもなっているようなので、しっかりとした説明と改善が必要であると考えます。

また、放課後の活動とはいえ、子どもたちの命を預かっていることに変わりはありません。事業に関わる大人が、危機管理意識を高め、子どもたちの安心安全を第一に活動していただきたいと思います。

さらに、時代にあわせ、子どもたちの将来を担うという共通の価値観をもった地域のコミュニティづくりの一助になるようなリーダーの育成が大切になりますので、子どもたちやその周りの人たちが安心して取り組むことのできる仕組みづくりをお願いします。

